

「2024 年度 JSCA 建築構造士定期講習会」のご案内

主催：(一社)日本建築構造技術者協会
建築構造士制度委員会

昨年は関東大震災から節目の 100 年となり、「構造設計 関東大震災からの 100 年」と題し、法整備、地震計測、耐震設計、防災等各分野の先生方からお話を頂きました。今年も元旦に発生した能登地震等の大地震が続いており、構造設計の耐震性については大きな課題であることには変わりありません。

今年度の定期講習会のテーマは「性能設計と地震被害」です。JSCA 性能設計部会では、2021 年 10 月に「JSCA 性能設計説明書 2021 年版【耐震性能編(簡易法)】(案)」を JSCA ホームページにて会員限定で公開し、2022 年 6 月 22 日に「2021 年説明書の説明と会員の方々から広く意見を聞く報告会」が開催されました。その後も JSCA が取りまとめた性能設計の考えは各方面で紹介され、活用されています。

現在は JSCA ホームページに公開資料として「安心できる建物をつくるために一構造設計者と共に考えましょう」を掲載しています。建築基準法は最低基準であることから、一律な設計ではなく発注者の要望に合わせた構造設計が必要と考えまとめられたものです。

能登地震等を通して地震発生メカニズムや地震被害を知り、発注者の要望に合わせた構造設計に活かす一助になればと考えています。

なお、木質構造の性能設計は JSCA 内部で取りまとめがされていないこともあり、木質構造については現状の構造設計の動向等についてもお話をいただければと考えました。

記

日 時：2024 年 8 月 3 日 (土) 13:00~17:30 (配信開始 12:45)

会 場：オンライン講習会 (Zoom ウェビナー)

内 容：性能設計と地震被害 ※タイトルの名称は変更する場合があります。

講演 1. JSCA が考える性能設計

小林光男 (JSCA 性能設計部会)

講演 2. GNSS 地殻変動観測に基づく能登半島地震のメカニズム

西村卓也 (京都大学防災研究所)

講演 3. 木質構造の構造設計の動向と能登半島地震の被災状況

五十田 博 (京大大学生存圏研究所)

講演 4. 災害後も住み続けられるまちづくりー美しくタフな建築・まちづくりを目指してー

竹内 徹 (東京工業大学)

参 加 費：JSCA 建築構造士、JSCA 名誉構造士：4,000 円
個人会員 (正・一般・学術・名誉・学生)：6,000 円
賛助会員・非会員：8,000 円
※全てテキスト・送料込み

定 員：1,000 名

申込方法：別紙参照

申込締切日：8 月 1 日 (木)

※講習会前日までにテキスト到着を希望する方は、7/30 (火) までにお申込みください。

JSCA 建築構造士登録更新評価点※：25 点

建築 CPD 情報提供制度対象講習会※：申請予定

※所定の時間を聴講したとみなされた参加者が対象となります。確実に付与されるようネット環境の事前確認を行い、通信障害等が発生しないようにしてください。対象となった参加者には概ね 4 週間以内にメールでお知らせします。なおメール連絡は評価点のみ。CPD は CPD 情報システムより確認ください。

視聴にあたっての注意事項：

オンライン講習会の受信映像や講演資料の保存 (画面キャプチャ、カメラ、撮影含む)、録画、録音は禁止いたします。参加登録をいただいた受講者はこれらの禁止措置に同意いただいたものとします。

2024年度JSCA建築構造士定期講習会

1. 開催日時、会場

8月3日(土) 13:00~17:30 Zoom ウェビナーによるオンライン講習会(配信開始 12:45)

2. 講習会タイトル

「性能設計と地震被害」

3. プログラム(プログラム名は変更する場合があります)

13:00~13:05 主催者開会挨拶

13:05~14:05 JSCAが考える性能設計
小林光男(JSCA性能設計部会)

14:10~15:10 GNSS地殻変動観測に基づく能登半島地震のメカニズム
西村卓也(京都大学防災研究所) ※録画講演予定

15:10~15:20 休憩

15:20~16:20 木質構造の構造設計の動向と能登半島地震の被災状況
五十田 博(京大生存圏研究所)

16:25~17:25 災害後も住み続けられるまちづくり
ー美しくタフな建築・まちづくりを目指してー
竹内 徹(東京工業大学)

17:25~17:30 閉会挨拶

4. 講演概要

(1) JSCAが考える性能設計

JSCAでは、JSCA性能設計説明書2017年版【耐震性能編】を2018年3月に、JSCA性能設計説明書2021年版【耐震性能編(簡易法)】の最終版を2023年3月にJSCA会員に公開しています。JSCA性能設計が提案する「基準級」、「上級」、「特級」の3段階の耐震性能グレードは多くの構造設計者に認知されつつあります。よって、これらの説明書の概要を説明し、現状の活用状況と普及に対する問題点や性能設計部会の今後の活動目標をお話しします。

(2) GNSS地殻変動観測に基づく能登半島地震のメカニズム

国内でGNSSによる地殻変動観測が開始されてから30年が経過するが、大地震に先行する明瞭な地殻変動が観測された事例はほとんどない。一方、令和6年能登半島地震は、2024年1月1日発生したM7.6の地震に先行して、2020年12月頃から群発地震が発生し、地殻変動も同時に観測されていた点で特異な地震であった。本講演では、能登半島地震に関連して観測された地殻変動と群発地震についての概要とそのメカニズムについて報告する。

(3) 木質構造の構造設計の動向と能登半島地震の被災状況

近年、木質構造に関して基規準類の改正・改訂が進められている。基準法改正の前段階の検討は基準整備促進事業などで実施されるが、最近では、高さ方向の併用構造の剛性率にかかわる緩和や鉄筋コンクリートや鉄骨造の耐震壁として木質材料を用いるような構造の設計法に関する環境整備の準備が進められている。また併用構造だけでなく、集成材構造のマニュアルやCLTパネル工法の適用範囲拡大なども進められている。本講習ではそれらの概要を紹介するとともに、令和6年1月1日の能登半島地震における木造建物の被害原因についての概説も予定している。

(4) 災害後も住み続けられるまちづくりー美しくタフな建築・まちづくりを目指してー

今年1月の能登半島地震は、倒壊し人々の命を奪った建物だけでなく、数万棟に上る半壊建物を生み出し、その撤去・改修には長い年月がかかると言われている。今後、首都直下地震や南海トラフ巨大地震、豪雨洪水被害が予想される中で、スクラップアンドビルト型の防災対策には限界があり、「逃げなくてすむまちづくり」「災害後も住み続けられるまちづくり」を目指さなければならない。その様な観点より、人口減少下のまちづくりのあり方、性能設計や制振・免震構造のすすめ、そして竹内が現在会長を務める日本建築学会の取り組みを紹介する。